

れば、もちろんそういうことも検討してまいりたいと、選挙管理委員会のほうでは協議してまいりたいと思っております。

以上です。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、阿部議員の一般質問を終了いたします。

11時30分まで暫時休憩といたします。

なお、昨日申し上げましたとおり、なるべく昼をまたがない一般質問というのを今回やってみたいと思っておりますので、次の宮島議員の質問が、12時を回る場合であっても、終わるまで一般質問を続けますので、皆さんご了承いただきたいと思います。

〈午前11時22分 休憩〉

〈午前11時29分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。〔11番 宮島 宏君登壇〕

○11番（宮島 宏君）

翠新クラブの宮島 宏です。

本日は、4項目の一般質問をさせていただきます。

1、豪雨時の水害対策と豪雪時の屋根雪下ろし対策について。

地球温暖化は、大気中の水蒸気量の増加や海水温上昇により、豪雨・短時間強雨の増加、酷暑、渇水、台風の強大化、高潮など、気象災害をより激甚・頻発化させる主因とされています。

また、地球温暖化は、日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）による局地的な大雪の頻度や強度に影響する可能性も指摘されています。

以上の傾向は今後も継続するとされ、生命・財産・生活基盤への脅威が高まるため、気候変動とその影響を理解し、適切な対応策と防災対策の実施が急務です。

本日は、局地的豪雨と局地的豪雪への対策について伺います。

(1) 防災ハンドブックには河川の氾濫による浸水域と浸水深が図示され、それらは津波によるせり上がり浸水深や浸水域の予想を上回るものとなっております。豪雨による水害対策の現状、一般市民への周知状況及び今後の方針について伺います。

(2) 労働安全衛生法施行令が一部改正され、業者が行う屋根の除雪作業では、転落防止用安全帯を取り付けるアンカーが必須です。つまり、アンカーがないと屋根の除雪作業ができません

ん。しかしながら、屋根雪下ろしが自力でできない市民の住宅には、アンカーが設置されていない場合があります。業者は委託されてもアンカーがなければ除雪作業が合法的にできないこととなります。市の対応について伺います。

- (3) 公的施設の屋根雪下ろしでも同様のことが言えます。小滝地区小体育館など多雪地域に位置し、屋根雪下ろしが必要となる公的施設のアンカー整備状況と今後の方針について伺います。

2、デジタルトランスフォーメーション（DX）の業務や教育への活用についてです。

2023年5月に糸魚川市DX推進計画が作成され、本年度は5か年の推進計画の中間の3年目となります。当市の一般行政と教育行政での生成AI（人工知能）とRPA（ロボットによる業務自動化、ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入状況とその効果及び運用して顕在化した課題について伺います。

- (1) 一般行政と教育行政への生成AIとRPAの導入経費と運用経費について伺います。
(2) 一般行政での生成AIとRPAの導入による効果と課題について伺います。
(3) 児童生徒と教員による生成AIやRPAの利用状況と教育的効果、課題について伺います。
(4) 生成AIとRPAの導入によって削減できた職員の勤務時間について伺います。
(5) 生成AIとRPAによる業務効率化以外に、導入によって新たに発生した価値や、職員や児童生徒の意識改革について伺います。

3、公務員の盗撮事件の頻発についてです。

公務員、特に教員による犯罪が全国的に相次いでいます。中でも本年6月に発覚した複数の教員による盗撮画像共有事件は極めてショッキングなものでした。8月下旬には盗撮で逮捕された栃木県の県立高校の教師の前任校から、盗撮用カメラが複数発見され、常習性も指摘されています。新潟県でも本年になってから、電車内で盗撮しようとした高校教員が懲戒免職になり、教育委員会の課長を兼務する博物館の館長（学芸員）の市職員が、盗撮で逮捕されています。

新潟県教育委員会は、教職員による犯罪抑止をテーマとした臨時校長研修会を8月4日に開催しております。他県でも盗撮事件の続発を受け、様々な対応がされています。

- (1) このような事件を受けて、糸魚川市と糸魚川市教育委員会の対応について伺います。

4、ジオパークのまちについてです。

前市長は、本年4月23日の退任の挨拶の中で「ジオパークを生かして、合併後の一体感の醸成に取り組んできた。」と述べています、報道機関は、20年間の前市長の主要業績として2つ上げております。1つ目は、ジオパークによるまちづくり、2つ目は、駅北大火からの復興事業の推進であります。

ジオパークのまちは、2008年以降当市のキャッチフレーズに頻繁に用いられてきました。以下、ジオパークを中心に市長の見解を伺います。

- (1) 前市長が推進してきたジオパーク事業についての評価と今後の方針について伺います。
(2) ジオパーク関係者で問題となっている4年に一度の再審査やその方法についての見解について伺います。
(3) “ヒスイとフォッサマグナのまち”、“ジオパークのまち”、“相撲のまち”、“石のまち”これらは、糸魚川市の特徴を端的に表現するキャッチフレーズで、これまでに発案され

たものです。今でも使われているものが、数多くあります。市長は“縮充のまち”など当市の新たなキャッチフレーズの考えはありますか。

- (4) 私は縮充には、「人口が減っても心豊かな充実した暮らしを紡ぐ」という意味のほかに、「あるものは充実させ、あるものは縮小する」という意味もあるのではないかと感じております。市長の見解を伺います。

以上、1回目の質問です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、一級河川姫川は、国が主体となって、堤防の浸食対策などを継続して進めております。県が管理する二級河川では、伐木や河床の掘削・整備などを継続して進めております。

また、5年度に市内全世帯へ洪水と土砂災害をまとめた防災ハンドブックを配布し、避難訓練での活用やマイタイムライン作成などの普及を図っております。

今後も豪雨による水害から市民の生命と財産を守るため、国や県と連携しながら、治水対策、防災・減災対策を着実に推進してまいります。

2点目につきましては、命綱固定アンカーや転落防止柵等の設置に対し支援しておりますが、引き続き、制度周知に努めてまいります。

3点目につきましては、既に設置されている施設もありますが、必要な施設については8年度までに順次整備してまいります。

2番目の1点目につきましては、RPAは2年度に導入し、その経費は約168万円であり、運用経費は1年当たり約110万円であります。生成AIにつきましては、本年度中の導入に向けて試行している段階であり、経費は発生しておりません。

2点目につきましては、RPAの活用により予防接種記録の入力など、3つの業務について自動化処理を実施し、業務時間の削減を図っておりますが、より広い業務においてRPAを普及させ、事業効果を上げていく必要があると考えております。

3点目につきましては、今後、学校においてどのような活用ができるか、検討してまいります。

4点目につきましては、6年度において、RPAの活用における職員の業務削減時間数は、246時間あります。

5点目につきましては、活用を進めるのに併せて、教職員や児童生徒の意識の変化についても注視してまいります。

3番目につきましては、8月に全職員を対象としたコンプライアンス研修を実施しております。

また、教育委員会では、7月に教職員を対象とした情報モラル研修を実施しており、各学校においても定期的に非違行為根絶研修を行っております。

4番目の1点目につきましては、教育をはじめ、環境保全や地域振興など、様々な分野で実績があると評価しており、今後も当地域ならではの強みを生かして活動するとともに、より経済効果を

高めるよう推進してまいります。

2点目につきまして、再審査は現行のプログラムでは必要であり、方法については、おおむね適切に行われているものと捉えております。

3点目につきましては、地域の歴史的な背景や市民の様々な活動から、自発的に「丸々のまち」といったキャッチフレーズが生まれることは、地域の魅力や歴史文化を発信する好機になると考えております。

4点目につきましては、選択と集中を意識する中で、縮小するもの、充実させるものを市民の皆様と共に考え、共に行動することで、自分らしく生き生きと暮らせるような取組が必要であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

順番に、2回目の質問をさせていただきます。

最初に、1番の（1）ですけれども、山岳地域が約90%を占める本市では、海岸沿いと川沿いの平たん地に多くの方が住み、多くの水田があります。この平たん地には、沖積層と呼ばれる約1万年前の最終氷期以降に、河川の氾濫で堆積した未固結の砂礫や泥から成る地層が分布しています。つまり、私たちが暮らしている平たん地の多くは、過去の河川の氾濫によって形成されたものです。

本市の洪水ハザードマップで想定されている浸水域は、河川の流域の両岸だけではございません。「ブラタモリ」でも紹介されましたが、日本海沿岸の砂丘の陸側にある後背湿地と呼ばれる低地が広く浸水域になっています。例えば海川の洪水時の浸水域は、竹ヶ花付近から横町2丁目付近まで東西3.3キロに及び、日本海ひすいラインの海側だけでなく、山側も浸水域になっています。度々話題になる駅北エリアだけではなくて、駅南エリアも浸水域になっているわけです。青海川、姫川、早川、能生川についても同様で、居住者が多い地域が浸水域となっています。

市議会の名簿に基づいて調べたところ、市議18人中13人が洪水の浸水域にお住まいです。このように、津波より、より影響する範囲が広く、さらに頻度も高いと予想されるため、普及活動や避難訓練が必要と考えます。実態と見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

住民へのそういったハザードの周知につきましては、ハザードマップの配布だけではなくて、出前講座を通じても行っております。また、地震、津波だけではなく、河川氾濫についても啓発を行ってきているところであります。実際には、能登半島地震が起きると、その地震災害に

ついでの出前講座の要望が多くなるといったように、実際の災害に伴って、そういった啓発のチャンスといえますか、皆さんにお話しする機会というのが参るかと思しますので、機会を捉えまして、河川近くの地域におきましては、河川氾濫ですとか浸水についての注意喚起、引き続き行ってきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

出前講座は、よりタイムリーな話題がやっぱり関心度も高いと思いますので、地震の直後に津波の出前講座、それは非常にいいことだと思います。

ただ近年、近年というか今年だけでも線状降水帯の被害、それから竜巻とか、そういったものがございますよね。そういったものを見て、的確に出前講座を計画していただきたいと思います。

防災ハザードマップなんですが、市外から毎年、何人かの人が引っ越してきます。教員も異動に伴って、糸魚川市にやってきます。そういった人たちに防災ハザードマップの冊子はお渡ししてるんでしょうか。

〔「暫時休憩をお願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時45分 休憩〉

〈午前11時45分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

市民課の窓口のほうで置いてあると思っております、そちらをご確認いただけるものというふうに思っております。

○議長（古畑浩一君）

ちょっと待って。今さ、市民課のほうに持ってると思いますって言いましたよね。だけど今、休憩取って確認したんじゃないですか。置いてあるなら置いてあるとはっきり、あとねそういう曖昧な答弁の言葉をやめるようにね、もう一回お願いいたします。

○消防次長（中村淳一君）

失礼いたしました。市民課のほうにハザードマップのほう置いてありまして、そちらのほうを手にとっていただければ分かるように、また、市民課のほうから勧めていただくように努めていきます。

いというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

全戸配布している資料ですから、引っ越された方にこういうのあるよじゃなくて、資料として提供するのが筋なんじゃないかというふうに思いました。

次に、洪水ハザードマップで、当市のもはですけども、ちょっと問題があるというふうに、幾つか消防のほうには指摘させていただきましたが、その中で僕は大事だなと思うのは、浸水が、どれだけの範囲じゃなくて、どれだけの時間、要するにどれだけの時間、水がたまってるのか、そういった情報が非常に大事だと思います。例えば上越市のハザードマップには、そういった情報が時間別で、12時間以内とか12時間以上とか、そういった色分けで書かれています。そういった情報が、糸魚川市ハザードマップにはないということをまず指摘させていただきます。

それからもう一つは、指定避難所というのがあります。災害時にここに避難しなさいというものですね。洪水ハザードマップの中に指定避難所もちろん書かれてますが、その指定避難所のかなりの割合で浸水域にあります。さらに見ると、平家建ての指定避難所もあるんですが、当然、床上浸水のする可能性がある指定避難所になってしまいます。こういったものは、見直していただく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

まず、浸水の継続時間ですか、そちらのほうにつきましては、国・県が公表している3つの河川につきましては、ホームページ上で確認しております。

ただ、そちらの周知につきましては、まだできてない部分がございます。今後、ハザードマップ等を作成する際に検討のほうはしていきたいというふうに思ってます。

指定避難所につきましては、防災のハンドブックにも掲載しておりますように災害の種類によって、マル・バツ、三角といったような表記をさせていただいております。例えばバツですと、その災害時には指定避難所とはしないといったこともありますので、そういったところのチェックをいま一度、今議員おっしゃられたように、浸水の時間ですとか想定区域等を照らし合わせて確認をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

水が入ってきて浸水すると、下水道が機能不全になる可能性があります。その場合、浸水域の中はもちろんですけども、その外側、近傍でも、水洗トイレが使えなくなる。あるいは今いろいろ設置が続いているマンホールトイレも使えなくなるということがあります。これも当然、防災担当では承知されてるとは思いますが、一応ここで指摘させていただきます。

次に、ハザードマップで想定されている雨量が想定最大規模というものなんですけれども、残念ながら当市のハザードマップには、どのぐらいの雨量を想定してるのかという表示がありません。

一方、上越市は、各河川別にそれぞれ想定雨量が書かれています。気象庁のホームページを見て、気象庁の雨量というのは1976年以降、約50年間、1日の降水量というものが調べることができます。現在も歴代20位まで、50年間の歴代20位ですね、そのうちの半分が、この25年間に起きてるんですよ。いかにこの半世紀の間に雨が多くなってるか。ですから、めったに起きない雨じゃなくて、本当に今そこにある危機という形で捉える必要があると思います。

姫川ではですね、先ほど市長がお話になったように、国が堤防の改良工事、それから河道の掘削などをしていただいています。

ただ、海川、一番糸魚川市の中心市街地に影響が多い海川については、確かに堤防の工事はされてます。だけどそれは、一部壊れたものを補修する、そういったものでとどまってるんですね。今後起きるかもしれない大規模な水害に備えて堤防のかさ上げとか、そういったものではないようなんですよ。その辺は、県のほうにも十分相談して、一番糸魚川の中心市街地に影響する河川です。姫川より実は危ないんです。それを承知していただいて、今後進めていただきたいと思います。この件についてはいかがでしょうか、海川の。それから、海川だけでなく早川とか、青海川とか能生川も同様です。ですから、糸魚川の主要な河川のほとんどは、人口集中地域に大きな水害を与える可能性があるということも、ぜひ知っというてほしいし、周知してほしいし、対策を県・国に積極的に要望していただきたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話ありました海川につきましては、河川管理者であります県のほうから、河川断面を確保するために、河道掘削とか、あと河川内の伐木等を重点的に進めさせていただいております。

同様に、能生川、早川、青海川等につきましても、毎年、河道掘削及び河川内の伐木を実施していただいているところでございます。今後も、県のほうと連携を取りながら、定期的な河川点検等によりまして、堆積状況などの状況を把握しまして、継続的に河道確保を行うように、当市としましても、引き続き県のほうに強く要望していききたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○ 1 1 番（宮島 宏君）

釈迦に説法ですけども、単純に河道掘削すると兩岸の堤防の底をいじることになりますので、ある意味、危険な行為なんですね。ですから、ただ掘ればいいというものではないということを指摘しておきます。

雪下ろしについてなんですが、建設課のほうでは、雪下ろし安全対策（転落防止設備の補助事業）をやっております。

一方、福祉事務所では、自力での除雪が労力と金銭の両面で困難な高齢者世帯向けに、その経費を一部助成する、屋根雪場施設等費用助成事業があります。福祉事務所のこの助成事業は、申請しても、屋根に転落防止用のアンカー等がないと、結局業者さんは除雪できないんですね。その状況を見て、例えば福祉事務所さんと建設課さんで種々の連携はされてるんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

連携ということにつきましては、降雪前の 1 0 月から 1 1 月にかけては、民生委員の各地区の会議のほうに福祉事務所と建設課の職員が出向きまして、安全対策について、リーフレットを基に説明をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○ 1 1 番（宮島 宏君）

福祉事務所さんの屋根雪の除雪の助成事業の申請書、それは市のホームページにももちろん出てますけれども、見ると、屋根に安全なアンカーが取り付けられてますかというチェック欄がないんですよ。例えばその申請書を基に、福祉事務所にある方が申し込んでいらしたとします。だけど現実には、アンカーがなければ駄目だよということになってしまうわけですね。そういったケースって今までどのぐらい、年間にあったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

件数は把握しておりませんが、業者によりましては、連絡したらアンカーがないということで断られているケースはあるというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今のケースをお聞きすると、屋根の雪がいっぱいあって本当は下ろしていただきたいんだけど、合法的に下ろせないがために、そのまま放置されてるということになるのかなと思います。

今度は、生成A IとかR P Aの話なんですけど、学校関係の利用についてはこれからだということなんですけど、教育委員会に伺います。

学校以外で生成A Iをどの程度使っているか、把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

児童生徒が学校以外で生成A Iを利用しているかという状況につきましては、教育委員会としては、現状では把握しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

モバイル社会研究所というものが、今年2月に小中学生の生成A Iの利用率について発表しています。それによると、全国の小学校高学年で5%の子供が、生成A I使ってる。中学生になると13%が使っているということで、この数字は、年々かなり増えているということです。

教育委員会に伺いたいんですが、子供たちが生成A Iを使うことについて、よしと考えてますか、それとも、これはやめたほうがいいものと考えておりますか。全然状況を把握されてないようですが、どういうスタンスで教育委員会では見てるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

子供たちが生成A Iを利用することに関しては、今後そういった生成A Iを利用していくスキルを身につける上では必要なことだというふうに考えております。

ただ、現状としまして、教育の現場に生成A Iを性急に取り入れることについては、もう少し検討が必要なんではないかというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

生成ＡＩは、もろ刃の剣というか、いい部分もあるし、危ない部分もあるということは承知しております。

ただ、生成ＡＩを抜きに、今後の日本社会、世界は語れない状況になっています。

地域別に中学生がどのぐらい生成ＡＩを使っているかという調査もあります。関東地方の中学生は、約１９％使ってます。

ところが、新潟県を含む北陸甲信越は、全国で最も低い利用率になってるんですね。ですから、関東地方の中学生と比べると生成ＡＩの利用について、もう既に中学生の時点で遅れてしまってるわけですよ。生成ＡＩについては、いろんな研究を早めにしていただいて、どのように教育に導入するのが望ましいのか。隣の朝日町では、かなり早くから生成ＡＩを学校の授業に既に取り入れています。そういった先進事例がありますので、ぜひ早めに研究していただきたいと思います。これ要望です。

次に、盗撮の問題ですが、市で、先ほどのお話で職員向けにいろんな研修を、注意喚起を促す研修会を開いたりということでした。

ここで聞きたいのは、現実に管理している施設、学校も含めてですね、それから市で業務委託している施設、指定管理をしてもらっている諸施設に盗撮用のカメラがあるかどうか、そういったチェックはされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、市役所の本庁、能生、青海の事務所、また、市が所管している施設等について点検のほうを報告を求めましたところ、異常はないというところで報告を受けております。

ただ、本当に悪意を持った、例えば穴を開けて中に隠してしまってるようなものまでは、そこまではなかなか対応は難しいという印象はっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○１１番（宮島 宏君）

そのチェックは、極めて甘いと思います。盗撮をする人というのは、悪意を持って盗撮してます。単なるいたずらじゃないんですよ、悪意を持ってる。だから、いかに見つけられないようにするかというのは、巧妙です。ホームページを見ると、どういうところにどんなものが隠されるか、隠されているかというのがみんな出てますので、ぜひ研究してください。例えば、先ほどの話の指定管理のところも含んだ話ですか、今の答弁。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

庁内のほうでは、所管施設の確認時をお願いしたいということで、全体を含めて周知喚起をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

市が持っている施設というのは、トイレがあるだけじゃなくて、中には更衣室とかそういったものもありますので、十分チェックをしていただきたいと思います。

それから次に、僕は教職員、あるいは公務員の盗撮ということで先ほどお話ししましたが、生徒による盗撮も、実は多く発生しています。

警察庁によれば、2023年7月から約1年ちょっとの間に盗撮で検挙された中学生は83人、高校生は300人です。盗撮はいたずらじゃありません。犯罪だということで、そういったチラシを作っている警察や教育委員会も全国ではありました。加害者になる可能性もあるということで、子供たちにもそれは十分注意していただきたいと思います。スマホは誰でも持ってます、中学生以上になるとね、かなりの割合で持っています。それを更衣室に、あるいは更衣する場所に置いて、問題になったということは多々ありますので、そういった注意喚起は、学校のほうでされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

子供たちに、自分たちが撮った画像とかの中にはほかの人が写っているといったような場合が結構あるかと思います。そういったものも含めまして、自分以外のその写真とかデータについての取扱いについては、現在、教育委員会のほうで進めている情報モラル教育のコンテンツの中にも含まれておりますし、また、そういったことに関して各学校で専門家、警察ですとか弁護士さんですとか、そういったような方をお呼びして、子供たち向けに講演会を行うことにより啓発を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

ぜひ情報モラル教育を充実させていただきたいなと思います。

実は、この盗撮に関係して、つい最近なんですけれども、札幌市の教育委員会は、市内の幼稚園や小・中学校の教職員に対して、私物のスマートフォン、あるいはタブレット、そういったものを

教室、体育館、プールなどに持ち込んではいけないというルールを出しました。それだけ全国で公務員、教員の盗撮が多いということなんですね。かなり極端な対応だと思うんですけども、札幌市教育委員会だけでなく北海道教育委員会も、同様の方針というふうに報道されてます。

このような方針を聞いて、糸魚川市教育委員会としては、どのような見解を持たれましたか。あるいは、どのような対応を今後していきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

教育委員会としましては、やはりスマートフォンを先生たちが教室ですとかそういったところに持っていくのは、好ましくないというような状況はあるというふうに考えております。

ただ、ただですね、緊急時にスマートフォンを身につけていないと困るといったようなケースも考えられますので、その辺については各学校等でいろいろな状況を勘案する中で、ルールを決めて、行っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今、課長がおっしゃったことですが、能登半島地震の後、今までは、教員はスマートフォンを教室に持って行ってなかったけれども、より情報が早く得られる。あるいは緊急地震速報とか来るので、意図的にスマートフォン等を教室に持っていきなさいという指導をしているところもあります。

ただ逆に、そういったことを指導していないところもあるんです。そういったまちまちな対応は、あまりよくないんじゃないかなと思います。教育委員会として、統一した方法、例えば教室に持って行っていいけど、例えばこういったところは駄目だよとか、そういったルールづくりが分かりやすいんじゃないかというふうに思いました。

最後の4番目のほうに移ります。

ジオパークの諸問題なんですけれども、先ほど市長からは、いろんな有益な効果があったし、認定については、特に問題は感じていないというような趣旨のお話でした。私は、効果的には非常に大きなものがあったというふうに思ってますけれども、認定については、私、ジオパークのガイドですけども、大いに問題あると思っています。今後も、これは積極的に取り上げたいと思っています。

地域資源の有効活用によって、1市2町の一体感を醸成できたということを前市長は言ってます。私も、ジオパークというのは非常にいいまちづくりのツールだというふうにずっと言ってきました。

9月5日の一般質問で市長から、STEAM教育の話がありましたね。サイエンスとかテクノロジーとかエンジニアリングとかアート、マスマティクスですか、いろんな学問を統合した教育が、STEAM教育ということなんですけど、まさにジオパーク教育も地質学とか地形学だけじゃなくて

生物とか産業技術遺産、環境など統合したもので、まさにSTEAM教育に通じるものがあるんだと私は思います。これは、ジオパークも良い部分。

ただ、当然ご存じだと思いますけども、繰り返しになりますが、言わせていただきます。

ジオパークならではのルールが、当市にはなじまないものがあります。例えば石灰石の利用は100年以上の歴史がある当市の基幹産業です。地方港湾である姫川港が、リサイクルポートになっているのも、この長年にわたる石灰石鉱業があったらこそです。リサイクルポートは言うまでもありませんけども、災害で発生した物の引受けとか、それから再利用化といったもので、日本に大きな貢献をしている港です。

ところがジオパークでは、石灰岩の鉱山は自然破壊をしている悪いやつ、そういった位置づけです。言葉はそういったもの使ってませんけども、要するにジオパークでは、取り扱ってないんですよ。

最初、私がジオサイトを決めるときに、鉱山も当然、ジオサイトで選んでました。そしたらNG、要するに自然破壊の現場は、教育とかジオパークには使っちゃ駄目だよと。現状のホームページ見ると、石灰岩工業の話は一言も出てません。それから、リサイクルポートも一言も出てないんですよ。これはね。大きな問題あると思います。

鉱工業を認めないジオパークは駄目だということで、オーストラリアは、世界ジオパークから撤退しました。要するに国としてなじまないというふうに判断したんですね。現状で日本のジオパークは、まちまちです。あるところは、受け入れてるし、でも糸魚川の場合は、石灰岩鉱山をジオサイトとして認めないなんていうジオパークは、果たしていいのかということに訴えたいと思います。

ヒスイも大きな問題を受けてるということは、ご存じだと思います。例えばヒスイの大きなものは、販売しちゃ駄目。それからヒスイ以外の鉱物・化石は、販売しちゃ駄目。単なるお土産だけじゃなくて、皆さんが中学生とか高校生のときに地学とか理科の授業で化石とか鉱物がいっぱい入った箱があったと思います。それ教材です。そういったものすら、ジオパークの中で売るとは禁止されてます。土産だけじゃない、教育すら駄目なんです。こんな状況でいいのかと、私はずっと訴えてきましたけども、前市長は、それでもいいんだというスタンスで、ずっと日本ジオパーク、あるいは世界ジオパークの方針を受け入れてきました。

私が今出した問題点は2点だけですけれども、ジオパークの観光ガイドから、ジオパークというものの縛りがあまりにもきついので、いっそのことやめてですね、糸魚川ならではのジオパークというものを独自に推進したほうがいいんじゃないかという意見すら出てます。ご存じのように、ジオパークって言葉は糸魚川が最初に使いましたんで、やめたとしてもジオパークという言葉は引き続き使うことができます。もし正式なプログラムから出れば、鉱山もちゃんと取り上げられるし、リサイクルポートも取り上げられるし、ヒスイとか教材用の標本だって売ることができる。

本日、チリにミュージアムの学芸員が行ってます、ジオパークの国際学会がやってる。その国際学会は、4年に一度やってます、世界ジオパーク。それからアジア太平洋の世界大会が、その間にあります。つまり2年に一度、ジオパークの国際大会に参加する義務があります。当然、大きな費用が発生しますし、4年に1回の審査についても大きな費用を負担しなければならない。そういった問題は、ぜひ久保田市長も今後、市長になられたばかりですけども、ほかの区長たちがどういう考えなのか、そういったものを市民の考えを聞いて、よりよい落としどころを見つけていただき

たいと思います。

あと2分40秒。20年ぶりに市長が交代して、新しい船長の、かじ取りに物すごく大きな期待があると思います。そのネオ糸魚川丸という船を象徴するような魅力的なキャッチフレーズを考案してですね、市長自らですよ、考案して、市政を推進していただきたいと思います。お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

今、宮島議員のほうから、そういうご提案がございました。ぜひ糸魚川にふさわしいネーミング、そういうものをつけていきたいと思います。

また、やっぱり先ほどのジオパークの件でありますけれども、やっぱりこれから基幹産業である産業との共生の道というものを探っていかなきゃいけない。

それと、今回、私に替わりまして、ジオパークも稼げる力を持とうという部分で、非常に悩ましい問題でありますけれども、稼げるためのジオパークづくりというのは、今後、検討しなければいけないと思っております。ぜひネーミングについては、いろんな駅北の先ほどのパブリックコメントとかいろいろありますけれども、そういうことも踏まえて市民の声を、やっぱり多様な声を聞くという部分は重要だと思っておりますので、これからの対話の中で、そういう部分をお聞きしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

縮充の町に関して、ちょっとお話しします。

兵庫県の西部に佐用町、佐藤の「佐」に用いる町、人口1.4万人の町がございます。この町は科学の世界で大変有名なSPRING-8（スプリングエイト）がある町なんですけれども、実はこの佐用町は、2年前から縮充のまちづくりというのに取り組んでいます。今年7月には、全国初となる縮充のまちづくり宣言をしています。

次に、最後1分30秒の間に、佐用町の取組について関連させた質問をいたします。

市長は、縮充を、人口減少を悲観せず、社会、地域、生活の質を充実させるまちづくりとされてました。これは、市長選のパンフレットです。

一方、佐用町の縮充の定義は、「縮」は、これまでの負担を減らして心を楽しむこと。「充」は、この町の暮らしを思い切り楽しむこと、つまり楽しむと楽の2つの文字で表してます。これは大変分かりやすい説明だと思います。

今回、敬老会で市長が挨拶の中で、「上を向いて歩こう、いつでも夢を」というフレーズを出されました。これは非常にタイムリーで分かりやすいし、さすがは久保田市長だなと思いましたけど

も、今後、市民のほうに分かりやすい言葉で市長の進め方を伝えられるようなフレーズをぜひ早めに作っていただいて、これからの新糸魚川市の推進に頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

この9月30日に縮充という観点で、職員の研修会を行います。今回、高校魅力化も含めた上でのこれからの在り方について、縮充という言葉の意味を含めて、職員がまず理解して、それならばこういうネーミングがいいんじゃないかという部分は、職員のうちから湧き上がってくるように、今後、仕向けていきたいなと思っております。いろいろありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

宮島議員、これで質問終わりますとか、一応、終結の宣言をお願いいたします。

○11番（宮島 宏君）

大変失礼いたしました。

これにて、私の一般質問を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、宮島議員の一般質問が終了いたしました。

昼食時限のため、13時20分まで暫時休憩いたします。

〈午後0時18分 休憩〉

〈午後1時20分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。〔10番 田原洋子君登壇〕

○10番（田原洋子君）

こんにちは。田原洋子です。

通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、災害関連死ゼロを目指す避難所運営について。

災害関連死とは、地震、津波、洪水などの自然災害において、建物の倒壊や火災などの直接的被害ではなく、避難途中や避難生活などにおいての精神的、肉体的負担が原因で亡くなることです。

過去の災害では、狭い避難所暮らしや車中泊で同じ姿勢を長時間続けることで、足の血管に血の塊（血栓）ができ、血栓が肺の血管に移動し、呼吸困難や激しい胸の痛みを起こすエコノミークラ